愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

(定價)一枚金壹錢五厘一ヶ月分七錢
三ヶ月貳拾壹錢半年分四拾貳錢
一ヶ年分八拾四錢金圓無遞送料郵券
代用(壹錢又は五厘切手)一割増
廣告料五號活字一行四拾錢

東京市麹町區下二番町三十七番地
大日本女學會内
發行所　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町壹千三百三十番

社說

婦人團躰の勢力

余輩は日本の社會に、悖德醜行の者日に多きを加へ、終には國の運命が危きに至らんとを、甚く氣づかひ、婦人方の力に由て、社會の制裁をつくり、此腐敗を防がれんとを、かねがね切望する者であるが、此程、めづらしくも嬉しき便りを得た。本月十五日の時事新報社說欄に、左の記事がある。

過日或地方より社友の許に達したる通信の一節に曰く今回の總選擧に當地方には三名の候補者あり其中に一名は學問と云ひ經歴と云ひ候補者として恥かしからぬ人物なれども愛に一大缺點は其人が妾を蓄ふるの一事にして選擧者の中には之を厭するもの少なからざるに拘はらず同地方の婦人社會には非難の聲高く隨て其勢力頗る振はず當人に於ては頻に苦心の折柄、土地の婦人協同會員に一婦人あり其候補者に向ひ貴君が今日限り蓄妾の醜行を斷念されれば兎も角も若しも然らざるに於ては婦人の名譽に掛けても大に反對せざるを得ず御決心如何との談判に候補者は從來の醜行重々恐入りたりとて斷然妾を放ち心運動に勉めたるより大に勢力を回復したり云々とあり其候補者とは何人にして又その地方とは何れの郡市なるやは姑らく明言せざれども右の通信は確かなる事實にして云々

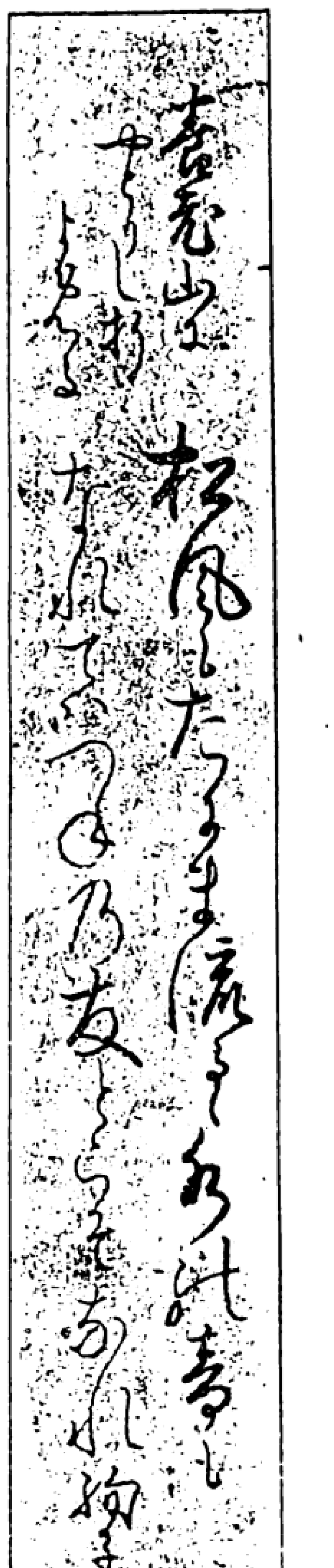
余輩は此記事を讀み、いよいよ婦人方の力を以て、社會の制裁を、十分に效力のあるやうに、擴充せられむとを祈る。殊に我が愛國婦人會は、今日に於ても、已に日本に於ける婦人團躰中の最大なるものであッて、各地到る處に、支部の設置がある。されば、此團躰を利用して、會員互に交際を勵み、屢々集會を開き、互に相戒めて、德義を修養し、相質して智識を交換し、以て團躰の勢力をやしなひ、若も悖德醜行があッて、此團躰の反對を受けたる者は、男女に拘らず、如何に金力があッても、如何に學識があッても、何事をも爲す事ができぬやうに致したいものである。西洋に於ては、社會の制裁力が强い爲に、紳士たる者は、不品行は働けないのであるが、日本に來て居る西洋人は、妾を蓄へ居る者が甚だ多い、是れは日本に社會の制裁がないから、斯樣に勝手な振舞をするのである。此一事を觀ても、如何に社會の制裁が必要なるかを察するに足るとである。

婦人修德論

故文學博士　西村茂樹

正三位勳一等文學博士故西村茂樹先生は夙に日本弘道會を起して我國の風教を振興せんとに盡瘁せられ殊に婦人問題に深く心を注がれ我が大日本女學會の爲にも直接間接に贊助を與へられたると少小ならざりしが當春以來重き病に罹り給ひ去にし十八日七十五歳を一期として溘焉逝去せられたり國家の爲いとをしき限りにこそ此の婦人論は先生が曾て我が大日本女學會の爲に講述せられたるものに係れり忍草にもとて其が一節を茲にかゝげつ

近年婦人教育の事に付きては、政府を初として民間にも之に從事する者多く、女學校と女生徒との數は、東京の人口に比して、甚だ不足ならざるが如く覺ゆるなり。然れば女子の教育の事は、夫等の教育家に委任して、吾儕は口を開くことを要せざるべき理なれども、如何せん女子の教育は本邦にては新設のことなるを以て、或は其方法を誤れるやの疑ある者亦少なからず。然れば今日本邦婦女の爲めに道德を講究し、一方に於ては、眞善なる女子の德育を更に高進し、一方に於ては邪路に迷へる女子を救ひて其本然の良性に復せしめんとするは先進者の義務なるべし。今の婦人は其身初めて偶然此國に生れ出て、偶然今日の有樣を成したりと思ふ者もあるべきなれども決して然るに非ず。今の人は何れも父母あり祖父母もあり、夫より代々の祖先ありて、其原に遡れば、何千年か以前に此國に生れ出で、其時より此日本の特性を受け、祖先の遺傳を受け、風俗、習慣、學問、教育、の感化を受け、以て今日の婦人の有樣を成したるものなり。此特性、遺傳、風俗、習慣、及び古來より學問教育の歷史は、現今婦人教育の根礎にして、是に依りて定めたる教育法に非ざれば、眞正なる國家の教育法と名くると能はず。歐米諸國の教育法を聞くに、何れも其國民の特性と習慣とに由り、教育の歷史を考へて、其時勢に應ずるの教育を施すものなり。本邦の女子教育を論ずる者は、多くは本邦婦人の特性を知らず、本邦教育の歷史を考へず、妄りに從前の教育を以て卑屈なりとし、頑固なりとし、務めて歐米女子の風を模倣せんとする者多し。此の如き人は、既に教育の原理を知らず、又歐米人が自國の民を教化するの主意を知らず、徒らに現今歐米末流の風を慕ひて之に倣はんと欲す、其本邦女子の美德を損ぜざらんと欲するも得んや。凡そ人類を初めとして動物植物に至るまで、苟も生機を有せる者は、皆其生產の地の異なるに從ひて、特別の性を有せざるはなし。本邦の米は印度の米(南京米)に同じからず、歐洲の馬は亞拉比亞の馬に同じからず、百般の動物植物皆然らざるはなし。是を有機物の特性と云ふ。故に本邦の米は本邦風の養成法あり、印度の米は印度風の養成法あり、若し互に其養成法を交換するときは双方ともに其米の成熟を誤るべし、教育は人類の養成法なり、苟も其法を誤るときは其德を害し性を損することと勝て言ふべからざる者あらん。本邦の婦人今日の狀態は、本邦婦人の特性を本として養成せられたるものなり。歐米の婦人今日の狀態は、歐米婦人の特性を本として養成せられたるものなり。其特性の元來同じからざるを以て現はれて、今日の風俗となる者も亦大に同じからざる所あり。今、日本婦人と支那婦人と歐米婦人と其特性の優劣を比較するに、固より特性のことなれば、彼此互に相同じからずと雖も、日本婦人の美質は支那歐洲の婦人に優ることあるも劣ることなきを信ぜり。(此事は余が先年宮内省の命を受けて婦女鑑を撰びし時、多く三國婦人の傳記を讀みたる上にて之を悟りし者なり)此の如き優良なる美質を持ちながら、之を養成するの法を考へず、甘んじて歐米婦人の下風に立たんとするは殘念千萬なることに非ずや。(未完)



評議員　柳楢悦子筆

曉露

理事公爵夫人　近衛貞子

ありあけのつきの光そやとりける
つゆにうるほふ庭の苔路に

理事侯爵夫人　鍋島榮子

いりかたの月かけすみておくつゆの
光もすごしあかつきのそら

評議員侯爵夫人　蜂須賀隨子

あさがほはまだいぎたなく見ゆれども
ひとりおきたる曉のつゆ

評議員侯爵母堂　前田朗子

なく蟲のこゑまたすめるくさむらの
つゆまづしらむ曉のそら

評議員伯爵世嗣夫人　大谷章子

庭のおもの芝生におけるしらつゆに
ありあけの月の影そにほへる

箏

評議員侯爵世嗣夫人　德川久子

おこたりのちりはらはせてとる箏の
はやしよりこそ花はにほはめ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論説

何故に海を厭ふか

海軍大尉　長尾耕作

小笠原少佐の英國から送られた通信は、婦人方に如何なる感覺を與へましたらうか。私は婦人が何故に海を厭ふかの理由を了解し得ないです、船は醉ふ、汽船に乗ると頭痛がするとの一點張りで、兎角海を厭ふのが一般の様に思はれるです。成る程海水浴とかに出掛ける人はありますが、海が好き、海上が面白い故に行くのではありますまい。旅行をするも汽車ならば喜んで行ッても、汽船と聞いては眞平と辭退する人が多いです。人の出入の五月蠅き、狹隘な塵芥多き汽車よりか、空氣の淸潔な安樂な閑靜な汽船の方が如何程愉快か知れないです。勿論始めて汽船に乗ッた時は大抵は醉ふです、しかし段々と慣るれば足も腰も立たぬ様な事は無いです。然るに日本の婦人が汽船に乗ると、概して始めから必ず醉ふものと心得、頭痛、鉢卷、半病人の人が多く、汽船の出港せぬ前から、カラ意氣地が無いです。島國に生れた人間がそんな事では、到底後世の子孫を海外に移殖する事は出來ますまい。

往古は船底一枚下は地獄とか云ッて船を恐ろしい者としてあッたのみならず、汽船の出來た當時は船火事とか、衝突とかゝあッて、爲に人心を寒からしめたのですが、今は飛脚船は實に安心なものになッて、午前十時に神戸を出發した上海定期船は、翌日の正午に横濱沖に到着するのですから、汽車の中で蚊に攻められ、退屈し果てゝ不愉快なのと較べると、汽船の方が幾ら善いか知れない。」斯く云ふと我田引水論だ、お前の如き議論をしても男子さへ大部分は汽船が善いと云はないのに、と思召さるゝに相違ない。成る程今の貴婦人方は夫でも差支へは有ますまい、しかし貴婦人方の令孃令息を教育さるゝに、其精神で遣られては、我海國の前途が思ひ遣られるのみならず、迚も海事上の發達が覺束ないのです。

私が貴婦人方に望むのは、今後此の二十世紀に活動しやうと云ふ未來の貴婦人、即ち今日の令孃方を、無理に苦しき境遇に壓迫しろとは云はぬが、責めては海は愉快なもので、病氣保養や避暑の海水浴が海が有る効用でなく、海上の面白き事、汽船の旅行は汽車よりは愉快多き事等を感ぜしめる様にしたいと思ふです。貴婦人方は如何に思召しますか。

講談

北京籠城の婦人

森林黒猿

前回に演べましたる如く、いよ／＼籠城と決しましたので、公使及び婦女子は、皆英國公使館へ引揚げる事となりましたが、女子の數總て十六名でムいまして、公使夫人峯子は病氣ですゆゑ、乘物に乘せられ、其他は何れも徒歩にて吾が公使館を出でました、其の人々には石井らく子、楢原政子、中川幾代子、小川文子、若杉りう、公使、石井、楢原氏等の下婢各〻二名、看護婦一名、石井氏の令孃二名及び、林其茂氏の妻でムいまして、此の林氏の妻は支那婦人にして名を彩雲と申します、一人の男兒さへムいますが、風呂敷包みを背負ひ、吾兒の手を引いて悄然として立出てますれば、下婢達も各自大いなる包みを脊負ひ草履をはき、夫人方は懷劍小刀の類を用意して、水兵義勇兵に護衞されつゝ立出てました。英國公使館に着きますると、公使御夫婦は本館の西方なる一室を藉りて、此處に居らるゝ事となりましたが、其他の御婦人方は、館内西北の長家に入りまして、玆に漸く避難所は定まりましたが、サテ之から婦人方の任務が匆々大變でムいました、先づ第一に土嚢と申しまして、布の袋を製らッて之に土を盛り、それを處々へ積んで敵の銃彈を防がなくてはなりません、其の嚢を縫ふ事が婦人の任務となッたのでムいますが、併し前回にも陳ぶる如く公使夫人は御病中であるし、石井書記官夫人も亦病氣に罹られて了ひました、楢原夫人は乳吞兒があるので、迚も自ら縫ふと云ふ事は出來ず、そこで中川夫人と、小川夫人は御相談をなさいまして小川ふみ子「ねい中川の奥さん、貴女と私しとは小供がないのですから、恁なりました上は、働けるだけ働かなくてはなりません、一ッ奮發して行りませうでは御座いませんか」中川幾代子「ハア爾ですとも、何でも最う身躰の續く限り働きませう……サア皆さんも萬國助手て下さいよ」是から袋縫ひに取掛りますると、第一番に若杉の妻、それから下婢達も一所に集團しまして縫ひ始めます、其の材料は何であるかと云ふと、日本公使館に在りまする窓掛、卓子掛、風呂敷は云ふに及ばず、何でもありとあらゆる布巾を持ッて參りますから、それで製へるのでムいます、其中に日本義勇隊の人々が親王府の方から錦、金襴やら美くしい絹布類で製作てある婦人の衣類などを澤山に持ッて參りまして「サア御婦人方是を土嚢に拵へて下さい」と、其處へ投出しました、スルと下婢達は之を見て吃驚し「アラまア此樣美しい物を土嚢に……まア／＼惜いぢやありませんかねい眞個に……奥樣チヨイと御覽遊ばせ、是は錦でムいますよ、私し是を一枚だけ戴だいて置いて、日本へ歸る時に着て歸りたうムいますわ」ます「お鐵さん馬鹿な事をお言ひでないよ、私し們は下婢などをして居て、錦の衣物などが着られるものですか」てつ「だッて錦を着て故郷へ歸るッて云ふぢやありませんか」なんかんと隨分著甚由來ことを云ひつゝ頻りに製ッて居りますと、又も義勇隊の方から大迫君が馳せて參りまして「サア土嚢が出來ましたら五十だけ下さい」小川夫人「だッて貴郎、今未だ製り始めたばかりぢやありませんか、爾速く出來やうはムいませんワ」大迫「けれども歴甚しても今至急に五十だけ要るですから、戴いて行かなくちやなりません」と、云ふとおますと云ふ女中は匆々活潑な婦人ですゆゑ「大迫さん、貴郎隨分解らない事を被仰るんですねい、此通り夫人方や私し共まで、傍目も觸らずに縫ッて居るけれども、爾速くは出來ないから仕方がないぢやありませんか、そんなに早く出來るものか出來ないものか、貴郎縫ッて御覽なさいましよ」大迫「イヤ下女君閣下之は恐入ッた、爾怒らずに成るべく速く縫ッて呉れ玉へ、何しろまア出來たゞけ貰ッて行く」と言ひ入だけ持ッて行きます、間もなく今度は小川量平君や、村井啓太郎君が馳せて參りまして「土嚢を二百ばかり急に入用だから製へて、大至急／＼」小川夫人「だッて貴郎、今大迫さんが三十ばかり持ッてお歸りになッたばかりですもの、未だなんにもありませんわ」小川量平「では竢ッて居るからチヨイと二百ばかり製へて」小川夫人「あら彼樣氣樂な事を被仰ッて」中川夫人「今四ッ出來てますから是だけでもお持ち遊ばして」おてつ「此處にも半分出來て居ります」小川量平「半分ぢや仕方がない」などゝ云ふ樣な有樣で、實に其多忙名狀すべからざる程でムいます。火事だ／＼／＼ヂヤン／＼／＼と、英館内には鐘樓があるので鐘を打鳴らす、人は騷ぎ出す、小兒は泣き出す、イヤハヤ其混雜、騷擾は一通りではムいません、婦人方も思はず縫ふ手を止めて驅け出し見れば、直ぐ壁一ッ隔てたる翰林院に敵が放火したのだから堪りません、折りしも風は西北風にて、最も烈しきことゆゑ、火焰は炎々として英館の方へ吹き付けまして今にも火は英館に燒え移らんとし、殊に婦人の居る部屋は一番近いのですから、急速に他に移らんければなりませんが、土嚢を早く製して遣らなくてはならぬから、此の火の子の烈しく來る中で毫しも怯めずに縫ッて居ります、其中に英國兵等は北壁を破壞して翰林院内に進入し、一方に敵を防ぐと同時に一方には消火に從事して居ますが、中々防ぎ切れませんので日本の方からも加勢に來て、物置小屋に在る米俵などを安全の場所へ持ち運びます、サアいよ／＼婦人部屋は危くなッて參りました。

愛國婦人を讀みて

山の奥に住むしつのめも國を思ふ　誠あらはす時は來にけり　兵庫　會員　河野ふく

愛國婦人會

れかはれと事をこりても軍人　こゝろ安けく盡し得るらん　同

奥村刀自に

眞心をそゝきて國に盡します　きみぞみなのかゝみなりける　同

奥村刀自の東北遊説をきゝて

國をもふふかき心のみさとしに　袖にあくれの露そこぼるゝ　東京　會員　松下たか子

夏杜

衣手のもりの木かけのすゝしさを　なにゝつゝみて家つとにせん　福岡　會員　村島常子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

弟橘媛命

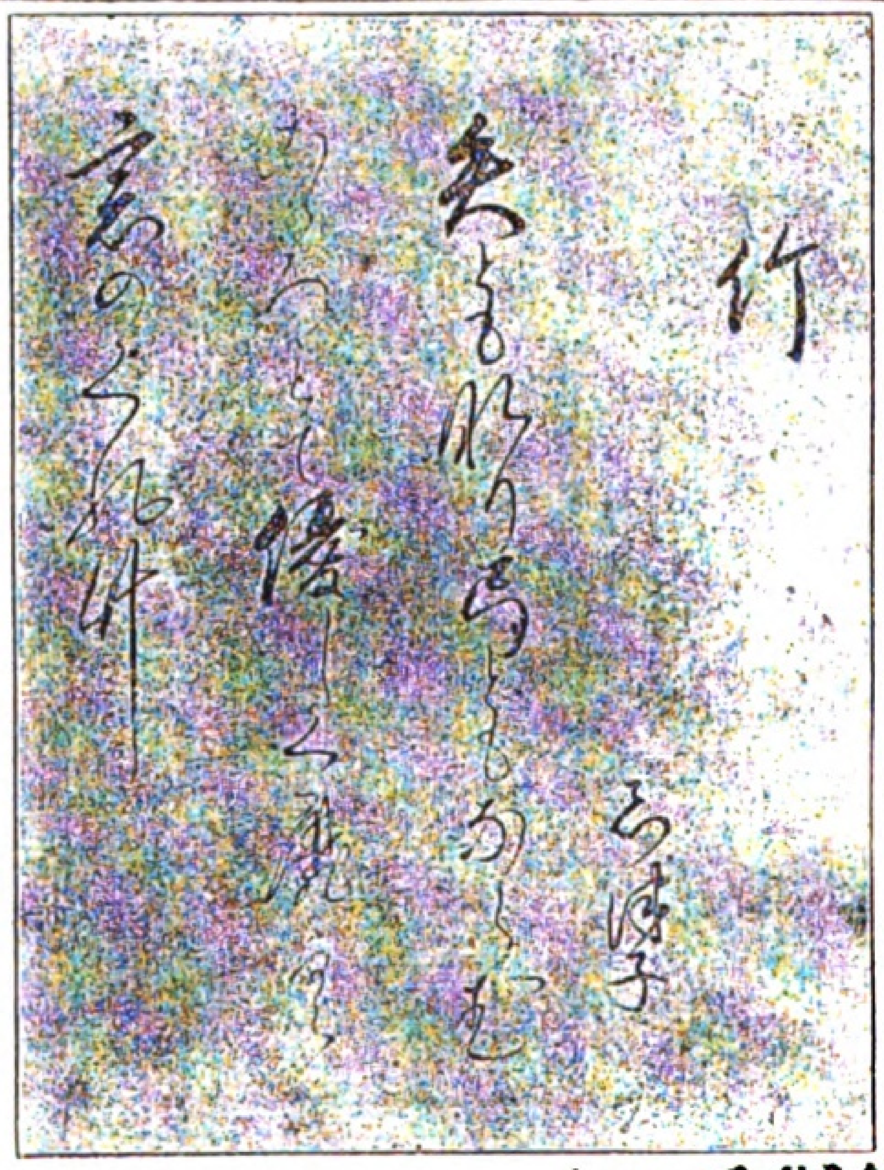
評議員　下田歌子

弟橘媛命は、日本武尊の妃にして、穂積の忍山宿禰が女なり。此頃のならひとて、尊、東征の日の御行に從ひ奉りぬ。尊は、駿河の賊どもが、相模の野に燒きうちせしを、辛く追ひ退けたまひて、相模國より、上總國に渡らんとし、海に望みて、「かばかりの小さき海は、我れ跳りても渡りつべし」と、呼ばゝり給ひし程なりしかば、何の御用意の無くて、御船はさし出だされ給ひけん。さるを、げに、「油斷大敵」の諺に漏れず、海の中央に在しまし、頃、暴風俄かに吹き出でゝ、怒れる濤、舷を越え、幾度か、甲板の上をも洗ふに至り、檣は折れ、楫は碎け、あはや、御船は、海底に沈みなんとしけるにぞ、勇猛無双の尊さへ、水の力には爭ひ給はんすべも在さで、たゞ、死をのみ待たせ給ふばかりなれば、况て、其餘の人々は、面の色見る／＼大海の眞青に變じて、言ひがひ無くも、僅かに、御傍りに蹲居し居るをたけき事にはすめる。其が中に、妃弟橘媛は、何時の間にか、御身うるはしく粧ひなして、頭髮には、ゆづのつま櫛をかざし、頸には、數の玉をつらね、徐々と、舷に立ち出で「いかにかた／＼、御船は、海神の爲に魅せられたりと覺ゆぞ。傳へ聞く、海神は犧牲を得て、始めて、そのあらびをとゞむとぞ。わらはは、畏こけれども、尊の御命に代り奉りて、龍の宮古にまゐらんと思ふなり。御餘波はつきねども、今更に兎かう云ふべき暇も無し。とく／＼、波の上に八重疊打ち敷きて、最後の用意を急がれよ」とあるに、在りあふ者どもは、互ひに眼と眼を見合はせて、我れつかうまつらんと云ふ人も無し。さる程に、獅の吼ゆるが如き風の音、忽ちうゝと響きて、だうと中る高波に、船體は、再びゆら／＼とゆらめきて、中空高く押し上げらるゝと見る程に、また遙かの海底に引き下げられたる時は、今ははやこれ迄なりと、人も我れも覺ゆるに、なほ沈みもやらで、傾きながら、波のうねく／＼たゞよふめり。妃は、氣をいらちて、此間にとく／＼と急がし立てつゝ、夢心地によろめき居たる人々を勵まして、渦卷く波の中に、疊を打ち込み／＼さする程に、波の少し靜まるやうに見ゆる頃でも、妃は聲いと朗かに、

さねさし相模の小野にもゆる火の
ほなかに立ちて問ひし君はも

と一首の辭世を詠じて、身をゝどらせて、海中に飛び入らんとしける時、尊は、「やよしばし」と叫び給ひて、よろめきながら、妃が衣の袖をとらへんとしたまひしかど、終に及ばずして、僅かに長なす黑髮のすゑのみ少し、尊の御手に殘りたるも、中々に形見こそとや思召しけめ。いとあはれに可惜しき事にぞありける。然るに、不思議にも、風は次第々々にゆるく成り、波はやう／＼に靜まりて、御船は恙無く、上總の浦に果てたりき。尊は、妃が忠節によりて、御身に障りあらせ給はぬのみならず、一行にも事無くて、この浦に安着せしかば、遂に、東の夷どもを討ち平らげて、信濃路より越の國、甲斐より、武藏・上野を歷て、碓氷峠を越え給はんとせし折、雲井はるかにきらめくものは、上總の海にこそと、人の申しけるを聞かせ給ひて、いにし頃、妃橘媛が其身を犧牲として、尊を救ひまゐらせしことを思召し出でつゝ、そゞろに悲しくいとほしくおぼし給ひけるまゝに、「吾嬬はや」とみたびまで繰りかへし呼ばひ歎き給ひしにより、今もなほ東國のことを吾嬬とは云ふなり、東京、隅田川の上流に吾嬬の森とてあるは、この妃を齋き祭れるなりけり。

古代の歷史は、其記事、概略にとゞまれるが故に、そが詳細を知るによし無けれど、妃弟橘媛が辭世、さねさしの歌の意を解すれば、さねさしとは、相模の冠辭なり。こゝろは、さがみの小野にて、賊の尊の一行を賺して押しつゝみ、燒き討ちし奉らんとせし一刹那、人はたゞ猛火に追はれ逃げまどひて、身一つも遁れんとするに暇無き程、なほ其炎の中に立ちては、妃は恙無きか、いづこぞ、此所へ、來たれ。我れをな見失ひそと、しば／＼問ひ尋ねさせ給ひしものを。尊は、その火急の場にも、御身を危うして、我れを救はせ給ひしに、我れ、尊の危急にのぞみ給ふを、目の前に見奉りながら、などて、身を殺して、海なす高恩の萬分一にもこたへ奉らでやはと云はれたるにて、いとも／＼あはれに悲しき歌なり。又、妃が、入水の際にも、盛裝能く、尊の妃たるの品格をおとさずして、死につくこと、恰も生につくが如くなりしも、かたへは、迷信より生ずる、後世、靈魂の存在に安神せし故もあるべけれど、なほ妃が膽力の尋常ならざりしを思ふべし。（完）


（評議員　佐方鎭子筆）

童話　ゴーポッツン

月廼舍かつら

或る田舍の酒造家の店に久助と云ふ爺さんが居りました此爺さんは若い時から此酒造家の藏男をして酒造の事は大層精しう知ッて居りまして杜氏の手傳もできますくらゐ此爺さんの家は水飲百姓ですが今は息子に世を讓ッて自分は隱居仕事に毎日此酒造家の店へ出て何やかや世話をして居るのです此爺さんは至ッて氣さくでまめ／＼しい人で其れに子供好きでお伽譚が大層上手でした此酒造家に五歲になる坊ちやんがありまして毎日此爺さんからお譚を聞くのを何よりの樂みとして居ります桃太郎・かち／＼山・花さかせ爺などを始め澤山にお譚を知ッて居る爺さんですが何分毎日の事ですから今はお譚の材料がつきてしまひましたずッと以前に話したお譚だから既う坊ちやんも忘れておいでだらうと思ッて話しかけますと坊ちやんは中々記憶がよくて

それはいけない／＼それは疾うに聞いて知ッて居る新しいのでなくてはいけない

と忽ち中止を命ぜられますので久助も窮しまして

それでは明日は屹度面白いお譚を考へて參りますから今日だけは御免を蒙ります

長い話でなくちやいけないぞ

長いのを考へて參りませう

長い／＼坊が聞き飽きる樣な長いのぢやぞ

よろしう在います

斯樣に約束をして其日家へ歸りましたものゝ最早お譚の材料は疾うからつきてしまッたので久助は夜中眠らないで考へ込んで居りました明る朝お店へ出ますと早速坊ちやんから催促を受けましたが今日はお店の御用が忙しう在いますから晩まで御待ち遊ばせと延期して置きまして頻りに考へ込んで居りました

いよ／＼日も暮れて夕飯もすみましたので坊ちやんはせきたてます

久助サア御譚ぢや／＼

宜しう在いますいたしませう……

先づ或る處にそれは／＼深い河の淵が在いました其淵の上に何百年經ッたか分らぬ程古い／＼樫の木が在いまして其枝が大層はびこッて何萬といふ團栗がなッて居ります其樫の木へ風がゴーと吹いて來ますと其團栗がポッーンと淵へ落ちます……

と其處で話をやめましたから坊ちやんは

其樣な短いのぢやいけない長い／＼話といふ約束ぢやないか

へエ未だ／＼長う在います

そんなら其れから何うしたの

それから又風がゴーと吹いて來ますとポッーンと落ちます……

それから何うしたの

それから又ゴーと吹いて來ますとポッーンと落ちます……

坊ちやんはそれから／＼と根氣よく聞きましたが何万粒といふ團栗ですからゴーポッン／＼と落ちても／＼一寸には落ちつくしませぬ坊ちやんは其中に眠氣が催して寢てしまひましたとさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

家事衛生 第二 看護

病蓐 蓐は頭の方を壁に着け、足の方と兩脇は壁に遠ざかる樣にし。又頭の方は少しく地を餘し、通行の叶ふ樣にすべし。此くすれば蓐の周圍を清潔にし、病人の位置を換へ又蓐の壁の濕氣を受くることなきゆゑ、風邪を防ぐことを得るなり。病蓐は又窓と窓との間に或は窓と戸口の間などになる程には敷設くべからず。しかせては叶はぬときは、賊風の通はざる樣障子屛風などを立つべし。すこやかなる人も病人も、寢具は藁・綿・羽毛の蒲團の柔く彈力あるを可とす。被蓐も羽毛やはらかき綿を入れ枕も共に皆白布にて包むべし。一度用ゐたる後は數時の間日と風とに當てたる後ならでは、疊みあるは用ふべからず。疊みたるときは明るき日の入る所に置くべし。蒲團被蓐の白布は屢々交換ふべし。

枕は蓐の頭なりと謂はるゝほどなれば殊に氣を付くべきものなり。病人によりては痛のため呼吸困難ため自ら程宜しとする體位を取ると能はざるものあり。かゝるものには蓐と枕との程あひは殊更に大切なり。枕の作り方置き方のあしきによりて不安を益し或は眠を不足にし、蓐の皺縫目の爲めに苦痛を覺え、又時によりては蓐瘡を起すやうなることあり。重ね枕を爲し肩を枕に上げ頭は稍胸に傾き背は浮きて床につかず、臀のみ深く蓐に落入るなど最もあしき臥させ方なり。大躰病人の體の重みを身の一と所に掛からしめず、床に付く所をなるべく廣くするを程宜き體位とす。身躰は蓐の上に靜に平にヒタリとつくべし隙あるはあしゝ。

枕は頭のみ載すべきものにて決して肩までも載すべからず。又肩幅だけの長さあるを可とす。こは頭の片下りせず肩の枕に掛からぬ用心となればなり。肩と枕との間には少く下に隙間あるべし。

就蓐位の高低座臥は病によりて同じからず、醫師の命ずるところによるべし。

◎女禮談片

行き逢ひし時の禮

(一)貴人に對する禮 貴人に行逢たる時は、先づ二三間此方にて立ち止り三四歩ほどうしろさまに左の方に引き退き少し腰を屈め、頭を垂れて如何にも愼みて待ち受け、己の前に近寄られたる時は、叮嚀に拜禮法を行ひ貴人の通り過ぐるを待ちて頭を上げ徐かに歩み去るべし。此時貴人は過ぎざまにいさゝか頭を下げ目禮して通り過ぐべし。

(二)同輩に對する禮 同輩に行き逢ひたる時は、四五尺手前にて互に左の方に二歩避け斜に相向ひて靜かに禮を爲し挨拶終らば双方同時に歩み出でゝ行き過ぐべし。

(三)階段にて行き逢ひし時の禮 階段の中途にて長者に逢ひたる時は、左の端により一歩を止め腰を屈して待ち居り、長者の行き過ぎたる後歩み出づべし。若し又己最上段にある時長者の上り來りたる時は、一歩退きて階上にて待ち受け禮を爲すべし。又己下段近くまで下りし時長者の來りし或は、成るべく足早に降りはて然る後に禮を爲すべし。同輩に對する時もこれに準じて心得べし。

(四)車馬にて人に出逢ひし時の禮 車馬にて人に出であひし時、先方の人長者ならば成るべく下りて禮を爲すをよしとす。されども場合によりて心に任せがたき時は其儘にて禮を爲すも妨げなしと雖も特に敬意を表して懇に爲すべし。見ぬさまを裝ひて行き過ぐる如きは甚しき無禮といふべし。又同輩及び下輩に對する時も之に準じて心得べし。殊に下輩に對しては注意せざる時は輕しむるやうに當りて人の感情を傷ふことあるものなればよく叮嚀に挨拶を爲すべきなり。

◎流行病に就ての注意(承前)

●飲食注意

○便所は時々掃除し清潔ならしむべし、但し外來に供する便所は時々消毒を施行すべし。

○手洗鉢の水は時々交換すべし、其手拭も亦た成る可く乾燥したるものを用ゐる樣注意すべし。

○下水は成るべく疏通せしめ、時々石灰を撒布すべし。

○邸内各所共清潔に掃除し、卑濕の場所には砂を撒布し、又は盛土を爲す等適宜の方法を以て、成べく乾燥せしむる樣注意すべし。

○昆蟲の襲來を防ぐ可し。昆蟲殊に蠅の如きは、家内に生住するものにして、不潔物を嘗め、更に吾人の飲食物に飛來りて、病毒を移植することあり注意す可し。

○飲食物の容器に注意す可し。折角く煮沸さしても、其容器に病毒の付着したりし時は、其効を消失す可し。

○飲食の會合は見合す可し。日本の田舍にては時節柄お盆、御節句、御祭り、お葬式などには、村中の人を集めて、夜のふける迄酒もりするの惡弊は夏時は見合す可し。

(完)

◎『家計收支の實況』を書いつけて報知せられんとを、我が敬愛する讀者の君だちに希ふ。

○各地の方々よりの報知に由り、種々なる家計收支の實況を、此誌上にて見給はゞ、互に整家の參考となるべきと尠なからざるべし。殊に土地に由り、職業に由り、身分に由り、費目にも金額にも著き相違ありて、興味多かるべし。或は家計の帳面を、一月分だけ其まゝ寫して送りおこせ給ひても宜し。

○名前を出すとを厭ひ給はゞ、匿名にても宜し、されども、府縣市郡だけは知らせ給へ。

○左に其一例を掲ぐ。

東京市牛込區何町會員某子報知

明治三十五年七月分家計收支

一家族六人 但し老母・夫・婦・子供二人・(内一人は學齡兒一人は哺乳兒)下女一人

一收入金五拾七圓參拾五錢

內譯 金五拾圓 月給 金七圓參拾五錢 所有軍事公債證書額面千八百圓の月割利子

一支出金四拾八圓八拾錢

內譯 金八圓(家賃)金拾圓(米代)金四圓(酒屋拂但し薪炭油鹽味噌味醂共)金參圓(八百屋但し乾物共)金參圓(魚鳥獸肉代)金五圓(良人小使)金壹圓(母小使)金壹圓(主婦小使)金壹圓(子供小使)金貳圓(下女給金)金四圓(被服費月割)金壹圓(學齡兒學費)金七拾錢(新聞雜誌代)金壹圓(湯錢)金六拾錢(茶)金五拾錢(砂糖)金壹圓(衛生費)金貳圓(臨時費)

差引八圓五拾五錢剩餘

○國詩談片

此一篇は大口うしのものせられたる大日本女學會の歌學科講義中の一節なるがいと面白ければ茲にかゝげつ

(贈) 源仲正の女美濃といふが、宮仕のため始めて皇后宮の御前に上りました時に、美濃が琴を彈くといふことを御聞及になッて彈かしめられましたら、はづかしさうながら彈きますのを聽いて、攝津といふ女房が、美濃に讀みかけるといふでも無く只カンの口占のやうにいひました。「カキナラス琴ノ音ガ御前ノ松吹ク風ニ通フサウナ、實ニ光榮ノコデ千歳ノ例ニモ引ク可キデアル」。

ことのねや松ふく風にかよふらん
ちよのためしにひきつべきかな 金葉集 攝津

(答) 美濃は琴を能く彈くのみでなく、歌の心得も十分にある女であるから、この攝津の口占を聞くと、すぐ答へた。「嬉シウモマア秋ノ深山ノ(皇后ノ御所をいふ一名)松風ニ私ノウヒ〳〵シイ琴ノ音ガ通ヒマシタ「カナ」

うれしくも秋の深山の松風に
初琴の音のかよひけるかな 同 美濃

(評) 出仕早々御沙汰を蒙ッて琴を彈じたのは例稀なる面目であるから、攝津も之を稱揚したのである、琴の音と松の根、彈くと曳く、皆松の縁語で仕立てたのは、齋宮女御の歌に「松風のしらべに通ふ琴のねをひけば子の日の心地こそすれ」といふのがあると同體である。美濃が返歌は、初心の琴を畏くも御聽に達したのは實にありがたい事である、とよろこびの中に謙遜の意が備はッて尤もよろしい歌である。始めて召出された御前で琴を彈ずるのも、さぞ恥しい思ひであらうに、歌をさへよみかけられたら、なみ〳〵の女ならば、如何であらう。顏をあかくして差し俯向く可きところであらうに、美濃は忽ち其の聲に應じて、斯くの如く立派に返歌をよんでのけたのは、洵に敬服すべき伎倆ではないか。平生の習養も勿論であるが、沈着して物に動ぜぬ精神でなくては出來ぬわざである。此の時代の婦人は藝術のすぐれた上に、精神もこの通り確乎として居ッたものである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷録事

●一兵卒の處罰を憫み賜ふ　天皇陛下本月二日露國大公殿下御訪問のため、芝離宮へ行幸あらせられたる砌り、二重橋正門に歩哨したる兵卒の一人が、鹵簿に對し奉り、畏憚の餘り、敬禮の規矩を失し、處罰せられ居るよしを聞こし召され、憐憫の大御心より、特に宥免せよとの御沙汰あり。其旨侍從武官長より傳達ありしかば、隊付士官は畏り、早速に宥免の手續に及びたるよし。司令部一般此事を聞傳へ、大御心の有難さに感泣せしよし。

●東宮殿下の御誕辰　皇太子殿下には目下塩原なる中山從一位の別邸に御滯在中にて倍々御健勝に渡らせらるゝ由なるが、來る三十一日は殿下の御誕辰に付、當日同所に於て御内宴を開かせられ供奉員一同に御祝酒を賜はる可しと。尤も殿下には日光地方の痲疹屏息次第同地御用邸へ御移轉あらせらる可き御都合なりと承はる。

●淳宮初御參内　第二皇孫雍仁親王殿下には去にし十三日午前九時三十分青山御産所御出門半藏門内吹上門を入り賢所東門外に於て御下車萬里小路女官抱き奉り、十時賢所皇靈殿神殿に御玉串を奉り御拜あり、更に賢所東門外より御乘車道灌門外庭東門を經て北御車寄より御參内、始て、兩陛下に御對顔相成りたり。　皇后陛下には殿下御誕生後青山御所に行啓御對顔あらせらるべき筈なりしも、當時御假床中なりしを以て　天皇陛下と共に初めての御對顔なりければ、一層御滿悦斜ならざりし由に承はる。斯くて十一時五十分御歸殿あらせられぬ。

◎奥村刀自東北地方遊説日記（承前）

八月一日　函館東本願寺別院滯在、終日來客に接す。
同　二日　午後二時より函館慈惠院に於て「國恩」と題して演説す。
同　三日　函館東本願寺別院滯在、
同　四日　午前十一時函館出帆午后五時松前郡福山着。支部員及松前家舊臣等二十名出迎ばれたり。
同　五日　福山專念寺滯在、
同　六日　午后一時より福山松城小學校に於て演説す。聽衆三百餘名。
同　七日　午后一時より福山町光善寺に於て演説す。先づ山内町長の演説あり次に、松前家舊臣中島氏松前家と奥村氏との縁故ある理由を述べられ次で刀自の演説あり。聽衆一千餘名。即時入會者二三十名あり。
同　八日　午前八時より福山專念寺に於て、福山松葉婦人會員三十名餘に對し講話す。同會員は悉皆入會する趣なり。支部員及び松前家舊臣等大に奔走盡力せらる。岩田又七氏は即時金百圓を寄附せられたり。
同　九日　本日は檜山郡江差町へ向ふ筈の所、近衛公爵來る十一日函館着に付き見合し歸航すべき旨の電報に接し中止す。
同　十日　午前九時專念寺發小蒸汽船に投じて函館に向ふ。大風雨の爲め非常に困難を極め午后四時函館に着す。
同十一日　午后六時近衛公爵函館に着せらる。一同出迎ふ。
同十二日　午前十時東本願寺別院に於て開會。聽衆一千二百餘名。中流の夫人多し龍岡支部長の紹介を以て近衛公爵登壇刀自の履歴及び本會の成立、目的等簡短に演べられ、了つて刀自演説す。即時入會者二三十名ありき。龍岡支部長林區長及び某女教員二名は兩三日前より盡力せられたり。

◎愛國婦人會記事

◎副幹事長の増加　今般會長より左の夫人を副幹事長に推薦せられたり。

高知縣副幹事長　五藤秀子
仝　玉置サト子

◎東京市内の專任幹事　市内の幹事方に於ては先般左の各夫人を互選し其區内の專任幹事と定め其區内の會費の領収其他の事務を取扱ふ事となれり

○日本橋區　仁杉英夫人　仁杉うた子
○芝　區　星松三郎夫人　星常子
○京橋區　佐藤保夫人　佐藤春子
○小石川區　笠井夫人　笠井梅野子
○牛込區　安藤夫人　安藤作子
○麻布區　麻生武平夫人　麻生鉾子
○赤坂區　新山莊輔母堂　新山雅樂子
○淺草區　大谷雄治夫人　大谷加知子
○四谷區　谷山浩夫人　谷山てつ子

◎奥村五百子刀自　本會業務擴張の爲め、北海道地方へ遊説の處、病氣及用務の爲め去し十八日一先歸京せしが病氣も最早や全快されたるを以て近日より再び新潟地方に遊説のため出張すべき豫定なり。

◎東京市内幹事

○京橋區

大住嘉右衛門夫人	大住りつ子
三木儀助夫人	三木つれ子
星野友七夫人	星野もと子
稗田瀧三郎夫人	稗田まつ子
三枝興三郎夫人	三枝かれ子
千葉松兵衛夫人	千葉はま子
田島爲助夫人	田島よれ子
佐藤作二夫人	佐藤よね子
白井五兵衛夫人	白井くわ子
宇津木信夫夫人	宇津木ひろ子
山川幸喜夫人	山川壽萬子
岸善兵衛夫人	岸たか子
佐藤保夫人	佐藤春子
長谷川福十郎夫人	長谷川たけ子
秋田太郎兵衛夫人	秋田きよ子
中村鋼助夫人	中村くに子
桑源祐夫人	桑さゑ子
池田謙三夫人	池田よれ子
西川忠亮夫人	西川よれ子
池田謙太郎夫人	池田とく子
仁科愼之助夫人	仁科まち子
福田万平夫人	福田きせ子
大村五左衛門夫人	大村きく子
中澤彥吉夫人	中澤きん子
阿部吾市夫人	阿部たか子

○芝區

川崎實夫人	川崎安子
星松三郎夫人	星常子
小松崎茂助夫人	小松崎さた子
山田忠兵衛夫人	山田かつ子
中鉢美明夫人	中鉢てう子
故岸小三郎夫人	岸鏗子
丸木利陽夫人	丸木駒子
吉田夫人	吉田芳子
田中夫人	田中房子
江副廉造夫人	江副くま子
岡田夫人	岡田靜子
齋藤琢藏夫人	齋藤專子

○麻布區

岡住米夫人	長岡よれ子
南郷茂光夫人	南郷柳子
麻生武平夫人	麻生鉾子
小浦鎮三郎夫人	小浦幾子
田村英二夫人	田村彰子
武智直道夫人	武智きく子

○赤坂區

近藤政利夫人	近藤登里子
保利眞直夫人	保利ひさ子
進十六夫人	進利子
新山莊輔母堂	新山雅樂子

○四谷區

野崎啓太郎夫人	野崎てい子
宇宿行輔夫人	宇宿くま子
仁科桑次郎夫人	仁科志津子
石川顯一郎夫人	石川和加子
本吉傳次郎夫人	本吉千代子
波多野尹政夫人	波多野たけ子
松平光胤夫人	松平すゝ子
伊藤藤四郎夫人	伊藤よし子
谷山浩夫人	谷山てつ子

○牛込區

土方稜三郎夫人	土方けい子
吉井茂則夫人	吉井[illegible]子
安藤夫人	安藤作子
男爵小澤武雄夫人	小澤粂子
別役成義夫人	別役男鹿子
仁尾惟茂夫人	仁尾繁子
菊池武夫夫人	菊池峰子

○本郷區

稲岡嘉七郎夫人	稲岡鐳子
風祭甚三郎夫人	風祭げん子

○小石川區

中野寅次郎夫人	中野小富子
岩崎武治夫人	岩崎ます子
笠井夫人	笠井梅野子

○下谷區

北原雅長夫人	北原いと子
金井延夫人	金井潔子
守田治兵衛夫人	守田いち子
原亮一郎夫人	原ひさ子
宮部久夫人	宮部てい子

○淺草區

杉本嘉兵衛夫人	杉本みな子
江崎禮二夫人	江崎うた子
今野信隆夫人	今野きわ子
岩崎宗吉夫人	岩崎てう子
松崎權四郎夫人	松崎多滿子
今井喜久夫人	今井てつ子
石垣元吉夫人	石垣たき子
大谷雄治夫人	大谷かち子
須藤時一郎夫人	須藤きく子
長田銀雄夫人	長田亥勢子
中居鍵藏夫人	中居とく子
室田景辰夫人	室田せい子
照内芳二郎夫人	照内ひさ子
森田鉞三郎夫人	森田しつ子

○本所區

大胡純夫人	大胡たけ子

○深川區

風祭甚三郎夫人	風祭げん子
鹿島清一夫人	鹿島糸子

第二皇孫の御降誕を祝ひまつりて

千代〳〵と雀もこゑをたつるなり
竹の園生のけふのさかえに　臺灣　安部多留子

九重の竹のそのふの年々に
いやさかえゆく御代そうれしき　埼玉　石塚千年子

限りなくしげる御園の若竹に
千代の榮もみゆるけふ哉　富山　稲垣千代子

青山の若松のうへにきこゆなり
千とせをうたふひなつるのこゑ　大阪　長谷かよ子

時鳥
ふくるまで我を待せて時鳥
こよひいつこの空になくらん　福岡　梅田八重子

このめつむ里のをとめらいにはてゝ
くるゝはやしに郭公なく　宮城　戸田淑子

文をよむ窓に一こゑほとゝきす
なきて過くなりこのまよ中に　山口　武光のふ子

納涼
人はみな門涼みにと立いてゝ
燈火のみそいへに殘れる　大阪　霜野秀子

門ことにすゝむをみれはたか宿も
ふき入る風や少なかるらん　東京　山田繁子

よることのあつさに人はいねかねて
月をめてつゝ門にすゝめり　東京　北岡文子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎婦人論梗概

◎松本孝次郎氏の「幼稚園に於ける童話に就て」

童話の効用は兒童の徳行を導き之を奬勵し實際の社會を離れて理想の社會に近づかしむる初の手段たるに在り。而してその目的に直接間接の二あり。前者は兒童の想像力を養ひ大に同情を發達せしめ道德上の眞理を覺得せしめ、後者は社會と自然とに關する知識を與へ且つ言語を覺えしめ文學上の趣味を解せしむるに在り。さて兒童の聞かんとする話の種類は之を四種とす即ち假作談、事實談、科學談、歷史談是也。而して最初は假作談最有効なれども其偶話中の動物等が犬は正直、狸は狡猾の如くよく道德上の性質を代表するとに注意せざるべからず。次に事實談を話すにあたり假令實際なりとて少しも潤色粉飾する處なきはよろしからず。又反面的事實は成るべく談すべからず即ち兒童の勉强心を養はんが爲に怠惰者の話をなすは却て怠けるとを覺らしむるに至る也。而て童話にて道德上の教を授けんとすれば兒童が感動され居る間に話を廢めらるれば永く効力あれども十分聞き厭きたる時話しやめらるゝ時は折角の感動も後に効力を遺さゞるとを忘るべからず。又保姆の言語は直に兒童の言語の練習となるものなるを以て何時も同一の話には同一の言語を用ゐる樣に練習するとを必要なり。又身振を用ゐて話に活動を生せしむると、及び假令拙なりとも繪を描きて示すと必要なり。又話すに方りては悲しき場合は悲しげに喜ばしき時は喜ばしげに話す時は其聲の抑揚の爲に大に感動を與ふるを以て幾分か假聲的に話すと同時に話す人自身に猿となり或は犬となりて話すと頗る必要なり。又其話は成るべく同じ話を操返すをよしとす唯形容に關せる處を幾分か變更して詞を殖やし行く時は兒童の知識も增し感動も强くなるの効あり。同一の話を操返すの利は聽者に於て此次は如何なる場合なりと期待し居る處へ果して其場合となるを以て愉快を感ずるに在りて益す進んで聞かんとの觀念を起すものなり。云々　（兒童研究）

◎棚橋絢子刀自の「母親の心得」　小學時代の女兒に對する家庭教育中第一、女兒をして奢侈に誇るの癖を付けしむべからず、勤儉の美德を養成せしむべし。夫れ驕奢は主に女子より起て、家を亡ぼし、國を滅する源なることを思はゞ、悚然として恐るべきものなり。而して徒らに女兒に德の德たる所以を說くも、到底解する能はず、何等の益する處なきを以て、須らく之に勤儉の氣風を養成すべし。衣服等は其家其地位に依りて應はしきものを要すと雖も、其較々美なるを以て飾衣のものにほこるが如き素振意志の見ゆるあらば、嚴に之を匡正すべきなり。又物品を麁末に扱ふの習慣を付けしむべからず。たとひ一紙片一糸屑たりとも丁寧に取扱はしめ、濫費の癖を生ぜしめず、貯蓄利用の習を付すべし。これ天物を暴殄するは其德を損する所以なればなり。第二勤勉を愛するの習慣を附すべし。女兒をして怠慢ならしむ可からず、怠慢は衆惡の基なり、賢母良妻は勤勉の人ならざるべからざるは明白にして習はやがて性となるを以て、若し遊惰怠慢の習をつくれば、終に固性となりて一生を損ふに至るべし。故に幼年の頃より家庭に於て、學科の復習の外に、その智能を啓發し、技藝を進歩せしむる樣、年齡相當の仕事を課すべし。勿論遊戯は必要なるを以て、十分之を行はしめ、以て遊惰に流れしめざる樣亦深く注意すべきなり。第三節制の習慣を養はしむべし、情を圓滿に發達せしむべし。物のあはれを知ることは、男女共に完全なる性格を作る大要素なり。君臣の道、親子の情、夫婦の愛、忠と云ひ、孝と云ひ、貞愛といふ、皆これ人間固有の美情の迸發したるものゝみ。人情とは「物のあはれ」を知るなり即ち其感ずべきに感じ、心を動かすべきに心を動かし、泣くべきに泣くを心ある人とは云ふなり。かゝる情あつて後始めて忠孝貞操の道も行はるゝものなり節を守りて義に殉ずるの志をも生ずるなり。然れども、固癖となけて中庸を失はゞ、冷淡となり、酷薄となり又た放恣となり、痴情となる。夫れ道義は大なる情を立てむが爲めに、比較的小なる情を抑ふるものにして、換言すれば人情を完全圓滿に發展せしむるものなり。若し誤解して此の情を抑壓し、芟除するものとなさば、大なる謬見とす。故に母親たるもの兒女に能く物のあはれを知らしめ、以て情を圓滿に發展せしむべし。即ち俗語を以て女子教育の目的をいへば、女らしき女を作るにありて、女くさき女を矯正するにあり。女らしき女とは即ち女の知るべき物のあはれを知り、孝に貞に女子の本分を盡すものなり。女子の情に過ぎ中庸を得ざるもの之を女くさき女とは云ふなり。第四閑雅婉美の態度を作るに注意せしむべし美は婦人の一大要素なれば幼よりたしなみを習はせざるべからず其他家庭に於て殊に注意すべきは禮儀作法及び交友の感化の如何なり。云々　（女鑑）

◎雜報

◎日本女子大學　同校の將來設置せんとする計畫なるものを聞くに、大學部の本科に教育部、理學部、體育部、音樂部、美術部の五科を置き、修業年限を三ヶ年間とし、又別に研究科として修業年限三年以內のものを置き、付屬として工藝部及商業部（修業年限三年高等女學校程度のもの）をも設立せんとの計畫なるよし。

◎東京音樂學校　同校に於ける新學期の生徒募集人員は豫科三十人、乙種師範部二十人出願期限は八月三十日限りなり。

◎女子東京美術學校　同校は目下生徒募集中なり。

◎成女學校　同校は二學年以下三十名募集するよし。

◎三輪田女學校　新築校舍落成に付き一年より四年まで入學を許す由、志願期限は九月十日までなりと云ふ。

◎東京女醫學校　生徒二十名目下募集中のよし。

◎橫濱女學校　九月一日授業を開始し、各級缺員ありて入學を許す。

◎女子裁縫傳習所　神田錦町三丁目一番地なる同所は九月一日より授業を開始す。

◎精華女學校　府下淀橋角筈なる同校は目下寄宿通學共生徒募集中なり。

◎女子高等師範學校準備科　神田區の大成學館に於て九月五日より女子高等師範學校入學志願者の爲め、準備科を置き授業するよし。

◎日本女學校　本郷なる同校には、九月新學期を開き各級補欠に入學を許すよし、寄宿舍も落成せしにより入舍を許すよし。

◎女子高等佛英和學校　神田區猿樂町なる同校にては英語佛語の速成科を設け三ヶ年にて卒業せしむる趣にて兩科生徒各五十名を募集し本年九月一日より開始し月謝は金壹圓なりと云ふ。

◎東京女學校　東京女學校（下谷區東黑門町）は高等女學校と同一の程度にして本科、專攻科、受驗科、裁縫教員養成科等より成れるものなるが、總裁鳥尾子爵は德行に就て深く憂慮する所あり、來九月より自身にて、每月一回宛修身上の講話をなす筈、又同校は九月より寄宿舍をも開設する筈なり。

◎女子講習會　女子に對する中等及び高等教育は、近時益急要を感じ、頻りに其發達を奬勵さるゝにも拘らず、方法設備尚未だ十分ならずして、現に本年の東京府第一高等女學校の入學試驗に、三百餘名の不合格者を出だし、無試驗入學者と雖も、校舍狹隘の爲め競爭試驗に附せられ、其結果不幸にも不合格となりしもの尠からず、寔に學界の恨事なれば、豫て女子教育に熱心なる下谷區仲徒士町二丁目日本島小學校長本島明光氏は、伊藤第一高等女學校長及び各教諭、下谷區長等の贊助を得て女子講習會を設け、高等女學校入學準備の爲め、國語、英語、算術、地理、歷史理科等の諸學科を教授する事となり。來る九月一日午後三時半より二時間づゝ、同小學校內に開會、知名の講師出席する筈にて、志望者は本月中に同校へ申込べしとなり。

◎女學生の洋行　文部省より今般左の婦人を英國に留學せしめたり。

家政學研究の爲め滿三ヶ年英國へ留學を命す　宮川スミ

◎吳如綸氏と三輪田女學校　吳如綸氏は嘗て日本に三(姓)輪田(名)と稱する有名なる女子教育家のあることを傳聞し、遙かに詩を寄せて其の高風を慕せしことありしが、頃日吳氏は通譯として一名の留學生を從へ、三輪田女學校を參觀し、校長三輪田眞佐子刀自にも面會せしが、床間に往年自ら揮毫して三輪田に贈りし

庭前春鳥啄林聲　紅夾羅襦縫未成
今朝社日停針綫　起向朱櫻樹下行

の一軸の掛かれるを見、玆に始めて三輪田は眞佐子刀自の姓なりしことに氣付き、意外のことに打喜び、女子教育上種々の問答の末、歸國の後は速に此の如き女學校を設けたきにつき、右につき刀自の意見を承りたしとのことに、刀自は之を諾し、目下其の意見の起草中なりと云ふ。又吳氏は刀自が老軀を以て學校設立のために鞅掌するの狀を見、且つ新築中なる校舍を仰ぎ、巾幗の身を以て國に竭すこと彼れが如し、日本國の興隆偶然にあらずとて、深く感ずる所ありきと云ふ。

◎鳥島の大噴火　東京府管內に屬する小笠原群島の一なる鳥島は、本月八日に於て噴火せし由郵船會社定期船兵庫丸船長の報告により詳にするを得たり。同島の位置は橫濱を距る正南三百三十浬八丈島を距る正南百八十浬にして、戶數は四十、人口は百廿五人內女子五十二名あり職業は信天翁の捕獲と漁業にして、面積百三十四万坪餘周圍二里餘の小島なるが、船長の發見したるは本月十六日午前八時頃鳥島の南西約二十五六浬の距離に當り、火山の高く噴出するを認め、漸く近くに從ひ鳥島の中央よりも黑烟を噴出し、尙海岸一哩の距離まで近き、滊笛をならして住民を呼べとも人影家屋をも見ず、住民は一人も生存し居らざるべしと。近來の大慘事と云ふべし。尙ほ去る二十二日其筋より軍艦高千穗を派遣せられ同時に兵庫丸も同島に向ひたり。

◎福田會の慈善旅行　福田會育兒院に於ては、此程相州鎌倉に慈善旅行を催し、兒童六十名を引連れ、同地光明寺に約三週間滯在の豫定にて、去にし一日出發せしが、頗る好成績を得て、二十日に歸京せしよし。

◎家庭美談　肥後國阿蘇山の片ほとり、南小國滿願寺字下月、佐藤なつ（四十一）は至つて慈善の志厚く、これまで貧困者を救ひし事屢々なりしが、去廿七年中同村字黑川にて捨子を拾ひ上げ、みさをと名付け我子同樣愛育し今年十一歲になりしが、實子あさよと仲睦まじく實の姉妹の如くに通學し居るといふ。

◎孝女皮肉をそいて母の病を救ふ　名古屋市東柳町雲出つる子（十八）といふは、高等師範學校に入らんとて、目下同校補習科に於て修業中なるが、此程來母なる人の背部に腫物を生じ愛知病院に入院して局部を切開せしが、患部に植皮術を施さゞれば快癒に長日月を要し、其內には餘病の發せん虞ありとて、院長は兎や角やと評議の內聽て孝心篤きつる子は、我が皮肉を剝ぎ取りて母の患部に植皮せられん事を申出てたれば、院長も其志に感激し、直に其請ひを容れて、此程鶴子の生皮を取り患部に植皮せりといふ。まことに感ずべきの至りにこそ。

◎看護婦の紀章受領　北淸事變の際廣島豫備病院にて佛國傷病患者の療養に從事せし看護婦數名に對し、今回佛國大統領及び同國文部大臣より夫々左の通り紀章を贈與せられたる由にて、是が受領并に佩用の允許を出願したり。

廣島病院看護婦長勳七等　加藤アサ
弘濟丸看護婦長勳七等　萩原タケ

佛國オフイシエーダカデミー紀章

西野ノブ　友成トミ
奥野ムメ　高木ムメ
湯淺ムメ　四方テツ
桂イクヨ　池田チエ

佛國名譽銀章

◎英國の水兵俱樂部　英國には海陸軍人の待遇厚く、一般國民も之を敬愛すると深き由なるが、各軍港に國家及慈善家に於て設立せられし水兵俱樂部なるものあり。今プリマウス軍港に設立せられたるものを讀者に紹介せんに、同俱樂部は一昨年設立せられ、三層の石造樓にして內部の區畫もよく整へり。先石階を登り、出入口の正面に酒保の設あり。其對方に事務室あり、食堂は約二百人の會食をなすに叶ひ、讀書室は約二十坪のもの三室あり。書籍室も亦同し廣さあり。內部の裝飾淸麗にして皇帝皇后兩陛下の肖像を揭け、各國の書籍を隨意閱覽に供せしめ、各室中最も神聖の處となす。以上の各室は下層に在りて、光線の供給、空氣の流通もよく、又壁には古來の海戰圖及び英雄豪傑の肖像を揭け、其歷史功績等を詳記せる等、用意周到玆に出入するものをして覺えず襟を正さしむるよし、寢室は第二層樓上にありて、約二坪宛に區劃せられ、各一の寢臺及椅子を備へ、其數九十四、寢具も淸潔なるものを具備し、他に炊事場、浴室六ヶ所、理髮及化粧室等悉く供はり居り、隨意に使用する事を得る仕掛けなり。酒保に出入するものは、午後七時より十一時頃にして人山を爲す程の盛況なるが、絕えて喧嘩なる事なしと云ふ。

◎海軍水兵の母　吾奥村刀自の如き婦人が英國にもあるものと見え、此程の英國通信によればミス、エーギチス、ウイストン氏なる婦人は、海軍水兵の母として非常なる尊敬を受けつゝあるよしなるが、數年前に內外貴婦人の同情によりてなれる四層の大廈を建築し、水兵俱樂部を設立し、前項記載の官立水兵俱樂部よりも一層規模大にして、玆に出入するもの尤も多く、寢室の如き六百以上の備へ付けあり。且つ孃は水兵を我子の如く丁寧深切に取扱はるゝを以て、皆其德に感じ居るよしなり。

◎日本水兵の母　前號小笠原子爵の通信にも見えたる、我が水兵の母とも稱すべきマグレン孃は、今や年齡六十九歲なるも、十有餘年一日の如く、我軍艦乘込員に對し、非常の好意を盡さるゝよしにて、今回我艦隊の入港せんとするを聞くや、孃は東奔西走慈善家に計りて寄贈品を作るが爲め十數日の間夜を以て日に繼ぎ、睡眠時間の如きも、連夜二三時間に過ぎざりきと云ふ。老年の身を以て勞苦を厭はず、もゆるが如き熱誠を以て、日夕樓に登りて我が日章旗を飜へせる檣影を待ちつゝありきと云ふ。孃は此の如き日本好にて、其室內の如きも好んで日本風の裝飾をなし、我が至尊の御眞影を揭げ奉り、且つ旭日の國旗及軍艦旗等を飾りたるが如き、日本國を愛するの情切なりと云ふ。且つ英國に於ては慈善家を遇するに尤も厚きを以て、孃の名聲天下に鳴渡れると同時に、其特權も大にして多く意の如くならざるなく、滊車賃の如きに至る迄割引をなし得べく、又慈善家の聞えある富豪等に向て、日本の水兵を連れ行くべければ、宜しく願ふなど、半ば命令的に照會し置き遠慮なく之に赴くことあり。而して孃の照會を受けしものも、又た至大の名譽として、直ちに之に應じ敢て難色なしと云ふ。

◎日英女學生の通信交換　日英同盟成立以來英國婦人にして、日本婦人の眞情を知悉せんとするの念大に起りたる結果、同國皇立地理學院會員リチヤード氏及在留本邦人中川浩平氏等發起人となり、英國皇后陛下の校長たる倫敦女子大學生外數十名の書簡を蒐して各般の事情を具し、遙に日本女學生の交際を求め來ることゝなりし由にて、在神田の英學新報社は、專ら之が媒介者として我女學界を警醒し、英國女學生と通信を交換し、情誼を訂結するものを求むると云ふ。

◎十歲の戲曲作家　世界隨一の年少作家は、カルメン、ド、アツシリアと稱する十歲の少女なり、彼は近頃巴里に來り、戲曲作家協會の會員となれり。會長はカルメンの餘りに年少なるを見て怪み、年齡を秘するに非るかを疑ひ種々尋問せしに、遂に其事實なるを確めたり。此の驚くべき年少作家は、是迄脚本七篇を著はし、佛國の田舍芝居にて演ぜられたり。フイガロ新聞記者の語る所に據れば、カルメンは四歲の頃迄一語を發する能はず、人々は啞者ならんと思ひしに、五歲に成りて獨語を作り一家のものを驚ぜりと。

こたび事務員を增し、發送の事を入念に取扱はしめ候事に致し候。此段一寸披露に及び候。新聞代價未濟の方々は、御手數ながら御送金いたゞきたく候。

愛國婦人發行事務所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●兒童新聞は日本唯一の教育的兒童の讀物なり

每月三回五ノ日發行
定價▲一部一錢五厘▲十部十五錢▲廿部三十錢▲三十部五十錢▲五十部七十五錢全國無遞送料(凡テ前金)見本ハ往復端書ニテ照會アレ

子を持たる、御愛兒のために本紙を購ひたまへ讀ませて喜ばせる斗りでなく教育上の參考となります
父兄諸君は

特色 ◎言文がごく平易て、尋常科三年生以上のものであれば、よく讀み、よく解することができる◎野卑な記事わ全くさけ、凡て教育的に出來てゐる◎あらゆる科學をごくわかり安く、ごくおもしろくかき兒童の智識を啓發する◎多く四號活字をつかつて兒童の衛生に意を用ひてある◎挿畫はすべて記事と連絡あるものを用ひ、ことに意匠に意を用ひて、兒童の趣味を養ふ◎學校教育との連絡に意を用ひ學校で學びしことを自在に應用せしむる◎特に言葉づかひに意を用ひ國語統一の大機關を以て任じてゐる。

發行所 東京本郷區本郷五丁目二十二番地 電話本局八百四番 兒童新聞社

軍人遺族救護義會

●救護金贈與報告

左記軍人の遺族家族百三十戸は救護を要すべきものと認め其拾七府縣所轄郡役所を經て救護金を贈與せり此段會員諸君に報告す

此金合計九百五拾六圓也

●東京市(下谷區)檜山光朝、入山長太郎家族、津田ひさ●奈良縣(添上郡大安寺村)增田トク(高市郡八木町)澁谷政吉●兵庫縣(明石郡魚住村)立花さ●三重縣(志摩郡鵜方村)森口德松、大西重吉(仝越賀村)井上長之助(仝御坐村)三橋万助(仝波切村)小河新五郎(仝船越村)伊藤安次郎家族(仝片田村)田中彌太郎家族(仝濱島村)名古八郎家族、中村甚三郎家族、大西寛次郎家族●愛媛縣(溫泉郡荏原村)德本キヨ、大西半須、安平ウタ、森田淺太郎家族(仝朝美村)水戶惣松、故加藤熊太郎遺族(仝小野村)奧村作次(仝粟井村)光宗鶴吉(仝素鵞村)淺岡要家族(仝東中島村)龜岡庄次郎、北岡宇太郎(仝淺海村)高橋甚太郎、渡邊丈太郎家族、須田次郎平(仝三津濱町)山本平次郎(仝坂本村)折岡ツル(仝道後村)三好源次郎家族(仝河野村)白紙マサ(仝拜志村)高橋久八(仝潮見村)二神廣藏、早崎佐藏(仝新濱村)石崎七兵衛、森安太郎(仝堀江村)堀馬次郎、上松吉五郎、渡部忠次郎(仝神和村)故中村良次郎遺族(仝古三津村)和田新太郎家族、島谷十太郎家族、苅住鶴吉家族、西森安太郎家族、土屋福太郎、宮本藤五郎(仝入枝村)石崎半五郎、大森金平、西村國松(公立岩村)宮田柳吉家族、重見卯八、久幾田彌吉中山幸次家族(喜多郡大瀨村)岡崎吉次郎、西岡長造、小泉善一家族、坂本與吉、林又吉家族(仝出海村)田中源治郎(仝新谷町)山本イワ(仝田所村)松野忠吉、山田市五郎、平井ナツ(仝御祓村)阪中鶴千代家族(伊豫郡下灘村)故瀧本安治郎遺族(西宇和郡舌田村)林イシ(宇摩郡妻鳥村)濱田ハキ、長野カエ(仝津根村)故松木音吉遺族(仝豐岡村)越智永士家族、定岡悦市家族(越智郡鈍川村)門田ヒサ、越智六之平、越智傳七(仝乃万村)橋田太作●山口縣(大鹿郡沖浦村)島津トヨ、藤井カメ(熊毛郡三井村)山根太兵衛(阿武郡生雲村)伊藤フジ(仝福賀村)長嶺駒吉●岡山縣(吉備郡管谷村)故鴨崎松平遺族、故元山甚吉遺族●靜岡縣(駿東郡浮島村)栗田增吉家族●長野縣(下伊那郡大島村)故杉本今朝太郎遺族、宮下年太郎家族(更級郡桑原町)細田林平●秋田縣(秋田市)湊スナ、神生清藏、故佐藤永吉遺族、黑澤啓伍、大內養吉(雄勝郡院內町)黑澤甚造(阿邊郡新屋町)田村キク(仝和田村)故田邊辯治遺族、木村熊吉(南秋田郡下新城村)中村ヨリ、故石井常松遺族(仝金足村)奈良米吉(仝天王村)石川ムラ(仙北村金澤西根村)藤田長治、鎌田善藏●德島縣(麻植郡桑川村)美馬リエ●和歌山縣(和歌山市)吉本小うた●石川縣(金澤市)高尾サト●島根縣(簸川郡江南村)坂根良藏(仝大津村)藤間米三郎(仝神西村)高瀨喜代市、矢尾忠一郎家族、西村虎市家族(灘分村)高木正德家族(仝杵築村)藤井タヨ、杉谷利藏、中筋丈太郎家族

明治三十五年七月
東京市京橋區西紺屋町廿四番地
軍人遺族救護義會本部

北海道教育會編纂(總振假名附)

下田歌子先生 家政學講義 附女子教育講話

●參版 菊判美本紙數三百五拾餘頁定價四拾五錢郵稅八錢
法學士持地六三郎先生著(總假名附)

經濟一夕話

再版 平易通俗に解說せる者 定價卅五錢郵稅金六錢
群馬縣師範學校教諭利根川與作先生新著

教育法令 學校衛生 學校管理法 教科書

新版 學事に關係ある諸士必讀 定價金六拾錢郵稅六錢●

發兌 東京神田裏神保町 合資會社冨山房
賣捌 東京堂、東海堂、林平其他各地書林

帝國貯蓄銀行

銀座二丁目河岸通り　電話新橋八一六番

本鄉一丁目 本鄉支店
飯倉四ツ辻 飯倉支店
赤坂表一丁目 赤坂支店
四谷大通り 四谷支店
南品川一丁目 品川支店
横濱吉田町 横濱支店
牛込神樂坂 神樂坂支店
神田須田町 須田町支店
兩國米澤町 米澤町支店
淺草雷門前 吾妻橋支店
代理店 日本橋坂本町 田中銀行

●一錢以上何程にても御預り最も御便利に取扱申候
●每月五日迄の御預け金は全月分の利子を付け申候

●水原產科婦人科病院

○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八百〇九番)○外來診察午前中○入院往診隨時○同院には私立產婆學校の設置あり

總裁小松大宮妃殿下副總裁鍋島侯爵夫人

推戴賛成員有栖川大妃殿下小松若宮妃殿下華頂宮妃殿下梨本宮妃殿下其他賛成貴婦人百餘名

●本會は明治二十八年の創立にて既に學年を改むること三回講習終了者一萬六千餘人を出せり●講義を囑托せる講師は華族女學校女子高等師範學校日本女子大學校等の諸教授及び其他博士學士等著名の專門家なり

新學年を開き會員を募集す

大日本女學會

本會は國家開明の本源たる女子教育の普及發達を圖らんが爲に女子必須の諸學科を揭げたる講義錄を發行し家庭を離れ難き女子をして居ながら通信教授を受けしめ且つ家庭を整ふる人の參考に資す仍て一般女子素養の程度に應じ高等簡易兩科を設くると左の如し

高等科(每月一回廿五日女學講義發行二個年終了束脩四拾錢月謝四拾錢紙數菊判參百頁)

○倫理坪內雄藏○禮法佐方鎭子○教育學安井哲子○兒童學高島平三郎○國文坂正臣○文法今泉定介○作文同○作歌大口鯛二○美辭學島村瀧太郎○漢文土屋弘○日本歷史大森金五郎○日本婦人列傳下田歌子○萬國歷史喜田貞吉○日本地理同○萬國地理同○地文脇水鐵五郎○理化同○算術上野清○植物松村任三○生理衛生三宅秀○家事衛生同○小兒衛生三島通良○家事經濟後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○繪畫武村千佐子○圖案同○美學島村瀧太郎○音樂東儀季治○挿花秀島成績○點茶松浦伯爵○園藝池田伴親○法制經濟岡戸讓介○民法鳩山和夫○社會學岸本能武太○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

簡易科(每月一回五日女學講義發行二個年終了束脩貳拾錢月謝貳拾錢紙數同百五十頁)

○修身談本會編纂○禮法佐方鎭子○國文同○作文今泉定介○漢文土屋弘○日本歷史大森金五郎○日本地理喜田貞吉○算術上野伊志子○博物小此木忠七郎○理化脇水鐵五郎○生理衛生三宅秀○家事綱要後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○圖畫武村千佐子○史傳下田歌子○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

●會則は端書にて請求あり次第送呈す●束脩月謝を添へ申込あれば假入會を許し直に送本すべし

昨年十一月新學年開始　十卷迄發行　初卷より缺本なし

東京麹町下二番町三七(電話番町壹參參〇)　大日本女學會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂　神田區表神保町三番地

◎東海堂　京橋區銀座四丁目

●特許梅田竈は●石炭●木炭コークス雜木共焚得る舊式の竈に比れば五割餘の益有る鍋鐵瓶等掛得る●煙戻らず家屋器具等燻ず 御試用三十日間は元價で買戻す

石炭を焚用ふれば八割餘の日益がある

●定價は鑄鐵製で
二升器　三圓五十錢
三升器　四圓六十錢
四升器　五圓三十錢
五升器　六圓五十錢
六升器　七圓八十錢
八升器　九圓也
一斗器　十二圓也

●說明書及び總銅製の價は無代で送る

發賣元　東京日本橋區通油町　梅田商店　名古屋市鐵砲町　岡谷

喜羽菊おしろい

本舖　東京日本橋區横山町十三番　佐野大和堂

正四位勳三等醫學博士　三宅秀先生著
大日本女學會發行　日本女子大學校教科書

家事衛生

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵税金六錢

此書は文部省學校衛生顧問內務省中央衛生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑託により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五篇ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき樣懇切に說示されたり世に類なき家庭主宰者の寶典なり

田邊和氣子刀自遺稿

此書は故田邊女史の令名を不朽に傳へんとて大日本女學會より紀念の爲に發行せられたるなり書中に割烹點茶活花の三篇あり是等の科目を說きたる書世に多けれども之を讀みて實際に講習し得らるるものは此書のみなりとの世評あり是れ畢竟女史が東京高等女學校華族女學校東京女學館大日本女學會等に於て多年授業法に熟練せられたりし結果なりといふ

●總クロース綴ぢ金文字入り菊判五百四十頁定價金壹圓郵税金拾貳錢

大賣捌所　東京神田區一橋通町七　有斐閣

ヴワイヲレット製
喜羽菊おしろい
伊勢壽堂吉製

正價　大瓶二十錢　小瓶十二錢
定價　大瓶廿五錢　中瓶十五錢　小瓶十錢

西洋色白くなる洗粉
喜羽菊あらひ粉
東京兩國　伊勢吉壽美花堂

定價綠藍和彩蝶番ひ鑵詰六錢五厘ボックス入三錢袋入壹錢

佛國大博覽會賞牌受領

（登錄商標）

博覽會賜賞牌　東京東兩國横網町

今古改正　寶香　齒磨

伊勢屋吉次郎謹製

夏半ゑり帶揚類　新柄友僊　絞り形縫

絽○絹縮○紋鹽瀬○染形○帶片側○組絞り兵兒帶○綛模樣け出し○別織染下メ○絽手綱○絞り美人紐崩木綿縮眞岡小紋中形染意氣高尙

新染浴衣地　向○雀形ゑり治形まげ入

電話新橋二千二十七番

ゑり治　園田商店

新橋竹川町十二番地本店
新橋詰帝國博品館內支店

發行所　東京本町　金港堂書籍株式會社

○各府縣特約販賣店にあり

婦人界貳號	軍事界四號	少年界八號	少女界五號
八月一日	八月五日	八月十一日	八月十一日
定價廿錢	定價廿錢	定價十錢	定價十錢
郵税二錢	郵税二錢	郵税一錢五	郵税一錢五

婦人界

◎第二號八月一日發行　定價一冊二十錢　郵税一冊二錢

（口繪）美人觀蓮圖（木版極彩色）——久保田金仙氏筆（寫眞版）西郷侯と其令夫人●ウヰンゾル王宮遠景●泰西名畫●須磨と富士川●令孃鑑●ウアジニア庭池●女子高師附屬高女職員と卒業生●英國ボートスクール料理教室

婦人界　●娯樂の根本觀念

論說
●婦人に對する要求……伯爵　大隈重信
●同……尾崎行雄
●同……青山學院長　本多庸一

家庭
●西郷侯爵の家庭……
●家政雜話……棚橋絢子
●女子と貯蓄　法學博士　添田壽一
●育見法……ドクトル、オブ、フヰロソヒー　北島亘
●耳と子供……醫學士　淺井健吉
●海水浴……內田鋼太郎
●家庭の一致……幸田露伴
●和洋料理法……石井泰次郎
●子供の言行（投書）……成女學講習會

小說
●池上の舟……田山花岱
●看護婦……ゆり子
●夕やみ……秋山桂子

社會
●社會の栞（緒言）……齋藤溪舟
●神戶の家風（寄入）……小川煙村
●京都の女行商（寄入）
●職業案內（紡績女工）（電話交換手）
●流行（えり治、玉寶堂、高島屋）

文藝
●綴錦……文學博士　横井時冬
●源氏物語の手引……新保磐次
●俳句の修辭……文學士　佐々政一
●歌がたり……大和田建樹

史傳
●伽羅千代萩　文學博士　大槻文彥
●下田歌子女史（月旦）……羽仁もと子
●外國人觀日本婦人……R S生

叢談
●コレラの話　醫學士　なにがし
●後室雪の別れ（講談）……邑井一

詞藻
●落梅引……文學士　久保天隨
●夏の歌……大和田建樹
●待宵門下詠草

時報
●淳宮雍仁親王殿下の御事▲妃殿下の御事▲本邦留學の支那婦▲津田梅子女史▲講道館內の女子部設置

懸賞
●附句の募集▲閨秀小說▲文▲和歌▲新體詩等の募集もあり詳細は本誌を見られよ

◎發行所　東京本町　金港堂書籍株式會社

一賣捌　全國特約販賣店にあり

尾上柴三郎新作

吹雪の夜

コロタイプ著者肖像入○清方畫伯意匠表紙書洋裝頗美本○正價金四拾錢　郵税六錢

藝文第貳分（卷目要）身、受戒　無名氏▲哲學と經濟學との關係○千葉鑛藏▲テニソンのアアサア物語○戶川秋骨▲源氏物語中の禪教○佐々木信綱▲白尾國桂○加藤雄吉▲支那の影響○大村西崖▲ハイドン及モツアルト○上田敏▲田植の歌○佐々木信綱▲歌○井上通泰○加藤土一代男○藤雄吉▲唐縁陰閑人▲腸曲りの王○山君▲小主觀○吹田蘆風▲ゑがす○蒲原有明▲老女○上田敏▲やまひこ○りんたろう▲をはりだより○森潤三郎▲きれつはな一▲觀能偶記○廣田花月▲韻語陽秋○鬮丁▲觀天情仙▲金色夜叉合評　安田衛阿彌○片町の一女○平田禿木○川尻清潭○伊臣紫葉○星野天知○戶川秋骨○麹町の一女○駒込の一女○佐々木信綱○伊原靑々園○饗庭篁村○依田學海○鈴木春浦○森鷗外○上田柳村○尾崎紅葉▲

價貳拾錢郵税壹錢▲製本既成▲發行所東京大傳馬町二丁目二十一　文友館▲

第二卷第八號發兌

毎月一回十五日發行定價金拾五錢全國無遞送料

（卷首）千代尼の筆蹟（論說）英國の家庭教育（承前）下田歌子●結婚の成立要件、愛南學人（學藝）和書解題（徒然草、方丈記）喜田文學士●漢書解題（漢書、後漢書）丸井文學士●日本名媛批評（和氣廣蟲）下田歌子●作文批評、今泉定介●作歌批評、大口鯛二●兒童の言語（三）梅澤和軒●明治維新の原動力（六）津田黃昏●夏の理科（蚤と蚊）中村乙橘（修身）最も大切なる學問は何ぞ、嘉悅政子（齊家）點茶、松浦伯爵●割烹、石井泰次郎（世務）經濟談（會社）伊藤秋南●虎列剌豫防心得、淺川醫學博士●各地產業の實況（二十三）「岐阜提燈」篠原知明（史傳）千代尼、松籟生（譚艸）義理ある子（上）岸本柳子●雲雀の雛（中）大塚素江（詞藻）十番歌合、白檮舍主人●田邊和氣子日記●みやび會員詞藻（雜錄）刺繡、木村仲子●婦人論梗概（彙報）內外要報十數件

大賣捌　東京神田區表神保町三　東京堂

をんな

總裁　小松大宮妃殿下　副總裁　鍋島侯爵令夫人、

大日本女學會發行　東京麹町區下二番町三七

明治三十五年八月廿五日發行（毎月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　大日本女學會

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN